



鷗外全集

第十二卷



大正十二年八月廿二日發行
大正十四年九月廿六日再版
大正十四年九月廿六日再版發行



鷗外全集

第十一卷

著者

森林太郎

發行者

東京市日本橋區通四丁目五番地
和田利彦

發行者

東京市麴町區內幸町一丁目六番地
中塚榮次郎

發行者

東京市牛込區矢來町三番地
佐藤義亮

印刷者

東京市小石川區西江戸川町廿一番地
佐々木俊一

印刷所

東京市小石川區西江戸川町廿一番地
富士印刷株式會社

發行所

東京市麴町區內幸町一丁目六番地
鷗外全集刊行會

電話銀座七八三番・二八八番
振替東京六二四八五番

(非賣品)

フ
ア
ウ
ス
ト
考

目次

第一編	ギョオテ前のファウスト	二五
第一章	ファウスト傳説の起原	二五
壹	歴史上のファウスト	二五
一	キツテンベルヒの傳説	二五
二	上ライン地方の傳説	二六
三	ウエルツブルヒとエルフルトとの傳説	二六
四	ライプチヒの傳説	二六
貳	歴史か神話か	二七
一	ヨハン・ゲオルヒ・ノイマン	二七
二	シムロツクとエミール・ジンメルと	二八
第二章	ファウスト本	二八
上	最古のファウスト本	二八
壹	ファウスト本の由來	二八
貳	最古のファウスト本	二八

ファウスト考 目次

一 神を棄てて、悪魔と契約を結ぶ	三六
二 悪魔と會談す	四一
三 世界を周遊す	四一
四 再び悪魔と契約を結ぶ、ヘレネ、死	四二
五 一五九〇年版のファウスト本	四三
參 轉移と補足と	四四
一 帝の前にて死者を出現せしむ	四四
二 葡萄の魔術	四四
第三章 ファウスト本	四五
下 牛ツトマンとその後繼者と	四五
壹 牛ツトマンのファウスト本	四五
一 述作の意圖と年立と	四五
二 牛ツトマン本のファウスト	四七
貳 フイツツチエルとクリスト教有志者と	四八
一 改訂本と抄略本と	四八
二 戀物語	四九

三	ファウスト本とギョオテと	四九
参	最古のファウスト本の起原	四九
一	問題、グリンムの想定	五〇
二	フルフェンビユツテルの古文書、發行者の序文	五一
第四章	マルロオの悲壯劇	五三
壹	脚本の由來と出所と	五三
貳	脚本の筋	五四
第五章	ドイツのファウスト劇	五七
壹	舞臺劇	五七
一	マルロオの影響	五七
二	流傳	五八
三	道化方	六〇
貳	人形芝居	六一
一	由來と爲組と	六一
二	シムロツクの人形芝居	六四
参	ファウスト、ドン・ホアン、キブリアン	六六

第六章	レツシングのファウスト	六七
壹	ファウストの斷簡	六七
貳	レツシングのファウストの消息	六八
一	失はれたるファウスト	六八
二	二種のファウスト	六九
三	傳説の改作	六九
第二編	ギョオテのファウストの由來	七一
第一章	ギョオテのファウストの由來	七一
壹	製作の前記	七一
貳	ファウストの根元	七二
一	ストラアスブルヒ時代	七二
二	フランクフルトとエツツラルと	七三
三	ワイマル(一七七五乃至一七八六年)	七三
四	イタリアの旅(一七八六乃至一七八八年)	七九
第二章	舊藁	八一
壹	原本のファウスト	八一

貳 斷簡……………	八四
參 原本と諸版本と……………	八五
一 原本と斷簡と……………	八五
二 原本及び斷簡とファウスト第一部と……………	八五
第三章 續藁……………	八六
壹 再度の著手……………	八六
一 シルレルの影響……………	八六
二 更新期……………	八八
貳 第一部の完成……………	八九
一 分段的補作……………	八九
二 大いなる空隙……………	九〇
三 綜括……………	九一
第四章 批評と興行と……………	九二
壹 反響と批評と……………	九二
貳 表現……………	九六
一 コルネリウスの線畫……………	九六

フアウスト考 目次

二	ラストシキウの組立と上場と	六
三	興行	九
	フアウスト第一分段比較表	一〇
第五章	完成 第二部	一〇一
壹	著手	一〇三
一	エツケルマンの影響	一〇三
二	ヘレネの變更、終の場	一〇五
貳	第二部の完成	一〇六
一	中幕としてのヘレネ	一〇六
二	第一幕の斷簡	一〇六
三	第一、二、三幕	一〇八
四	第四、五幕	一〇九
參	興行	一一
第三編	フアウストの解釋、第一部	一一三
第一章	薦むる詞、劇場にての前戲	一一三
壹	舊作と新作と	一一三

一	新舊作の限界	一二
二	落想の同異	一三
貳	薦むる詞、前戯	一三
一	薦むる詞	一三
二	前戯	一四
第二章	天上の序言	一五
壹	救はるるファウスト	一五
一	救済の觀念	一五
二	序言の趣旨	一六
貳	前戯の末句	一八
參	序言にての救済の觀念	一八
第三章	ファウストの第一の獨言、地靈の出現、門人との對話	一九
壹	新作に對する舊作	一九
貳	舊作に對する新作	二〇
參	要求する時代	二二
肆	自然對不自然	二三

ファウスト考 目次

一	ファウストの第一の獨言	一三
二	アウストと地靈と	一三
三	ファウストと門人と	二四
第四章	第二の獨言、復活祭の歌	二四
壹	舊作終局の目的、悲壯劇	二四
貳	メフィストフェレスの兩面、ファウストの不完全	二五
參	地靈との暇乞	二七
一	暇乞の假設の動機	二七
二	崇高なる心狀	二七
肆	人生に對する非觀	二七
一	障碍及び受苦としての事業欲	二七
二	憂慮と畏怖と	二六
三	塵埃中の生計	二六
伍	自殺の決心	二六
一	毒瓶	二九
二	事業としての死	二九

三	少時の記念の醒覺	一元
陸	復活祭の歌と穢き信仰と	二元
一	合唱の歌	二元
二	穢き信仰	二元
第五章	復活祭の日曜日、閻門の前	二元
壹	此場の由來と意義と	二元
貳	散歩する人人	二元
參	ファウストとワグネルと	二元
一	春の祭	二元
二	人の群に雜る人、菩提樹の下の踊	二元
三	「迷の海」	二元
四	日没、世間欲、狗	二元
第六章	第三の獨言、惡魔を呼ぶ咒、第一の對話、睡眠	二元
壹	序言と獨言と	二元
一	人愛と神愛と	二元
二	生の源泉	二元

フアウスト考 目次

三 事業欲としてのロゴス	一三六
貳 メファイストフェレスの出現	一三七
一 囚	一三七
二 デモン	一三九
三 「旅の書生」	一三八
參 惡魔論	一三八
一 自ら下したる定義	一三八
二 契約の發意	一三九
三 睡眠、欺瞞	一四〇
肆 討論の闕文	一四〇
第七章 第二の對話、呪詛と契約と。世界周遊の支度	一四〇
壹 再度の厭世觀	一四二
一 呪詛	一四二
二 先思の神	一四三
三 契約、賭	一四四
貳 前を承くる舊作	一四五

一	チタンの如きファウスト	一五
參	世界周遊に出で立つ前	一四
一	牧草の茂れる地	一四
二	メフェイス・フェレスの獨言	一四
第八章	賽ファウストと學生と	一七
壹	原本と斷簡と	一七
貳	大學分科	一八
一	論理學、形而上學	一八
二	法學	一九
三	神學	一九
四	醫學	一九
第九章	アウエルバハの筈	二〇
壹	小天地の入口	二〇
貳	學生の典型、唱歌	二一
一	典型	二一
二	唱歌	二一

参 幻術	一五三
------	-----

第十章 魔女の廚	一五三
----------	-----

壹 廚の場とその意義と	一五三
-------------	-----

貳 魔女とその眷屬と	一五三
------------	-----

一 猿	一五四
-----	-----

二 魔女	一五四
------	-----

第十一章 グレエトヘン悲壯劇	一五五
----------------	-----

壹 出所	一五五
------	-----

一 モデル	一五五
-------	-----

二 場所	一五五
------	-----

貳 遭遇	一五七
------	-----

一 街	一五七
-----	-----

二 娘の部屋	一五七
--------	-----

参 橋渡し	一五七
-------	-----

一 第一の飾、散歩	一五七
-----------	-----

二 第二の飾、鄰の女	一五八
------------	-----